



Can I help you? 「お手伝いしましょうか。」

～全ての民族は隣人であり、友人であると

自覚できる心（人間性）の教育を期待して～

北海道国際理解教育研究協議会

事務局長 一 関 庶 路

（札幌市立しんえい幼稚園長）

“Can I help you?” オーストラリアのシドニー市から近郊の「カンガール動物園」へ言った折り、母親らしい老婦人のお世話をしながら一緒に観光していた若い女性から声をかけられました。ひとり旅であった私は8ミリ撮影機も、カメラも自分でとることはできないでいました。それを見て援助の手をさしのべてくれたのだと解りました。

早速8ミリの操作を手まねで説明して、カンガール動物園に居る自分を撮ってもらったのです。私にとっては貴重な1シーンになりました。

異国人とわかる私を相手に、いくら助けたいと思っても話しかけるには、決断の勇気が必要であったろうことを考えると、まるで、隣人か友人に話しかけるように思えた心遣いでした。「親切」と言う言葉では表現しきれない親近感あふれる笑顔と共に、その心（人間性）に感動し、今も強く胸中に焼き付いて、忘れられません。

そのことだけで、オーストラリアと言う国（人種）が大好きになった思いがしました。インドネシアでも、ニュージーランドでも、似たような心（人間性）に触れることができ、やはり忘れられない好印象の国（民族）となりました。訪れる先々の国で同じような心（人間性）にふれることができれば、きっと、どこの国（民族）も大好きになることだろうと思いました。それ故、国際理解教育の実践で、私は、学級の子供達にこの心（人間性）を涵養したいと考えてきました。

実践を積み重ねながらも「こうすればこうなる」と言えるものを提示出来ないのが残念ですが、以来、多くの研究授業を参観させていただき、数多くの子供達の心にふれさせていただけましたが、見方を変えれば、それは『指導者の心にふれている』ことになるのだと思っております。

これからも授業の中（基底）に、どのように「心」を一本のすじとして通しているかを見極め、一緒になって学んでいきたいと考えています。

会員各位の益々のご指導に期待を申し上げますと共に、ご協力を切にお願い致しまして、就任のご挨拶と致します。

平成7年度

運営方針

北海道国際理解教育研究協議会

本会は、会員相互の研修と連携互助の精神により、会員の資質並びに職能向上を図り、もって北海道の国際理解教育の充実発展に寄与することを目的として活動する。

☆多文化・共生社会に生きる児童・生徒のために、組織的に研究・研修を重ね、その成果を広げていく活動の充実と推進に努める。

☆本会は、学校教育の枠を越え、目的を同じくする社会教育・民間団体・ボランティア等との連携を図り、その「かけ橋」としての役目を担う。

〈本年度の活動の重点〉

(1) 各地区・各支部の会員相互の連携を一層密にし、組織の強化と活動の充実を図る。

ア) 各地区・各支部の研修会・事業等の交流

イ) 在外教育施設派遣教員帰国報告会

ウ) 在外教育施設派遣教員研修会

エ) 日本教育研究連合会教育研究大会（発表者派遣）

オ) 国際理解教育カリキュラム作成（H7年度完成）

カ) 全国国際理解教育研究大会（発表者派遣）

キ) 北海道国際理解教育研究大会「北海道大会」開催

(2) 会員の資質を高める研修活動の充実と国際理解に貢献する他団体の活動への参画を図る。

ア) 国際ジュニアアート トマムキャンプ

イ) 国際協力作文応募（知事室国際企画）

ウ) 北海道アジェンダフォーラム（大学生団体）

エ) その他

(3) 広報活動の充実を図る。（海外派遣者へも送付）

平成7年度

業務計画

北海道国際理解教育研究協議会

[事務局]

1. 理事会総会の企画運営
2. 事務局会議の開催
3. 部長会の開催
4. 各部の業務全般に関わり、連絡・調整・助言に当たる
5. 第16回北海道国際理解教育研究大会（上川・旭川大会）の企画運営
6. 各支部との連携
7. 各種資料及び発行物の保管
8. その他業務推進に関わる事

[会計部業務事業計画]

1. **基本方針** 北海道国際理解教育研究協議会の研究活動の充実、発展に寄与できるような会計執行に努める
2. 活動計画
 - ア、平成7年度会計予算案作成、提出
 - イ、年会費の徴収
 - ウ、海外派遣者激励会の予算案作成、会計執行、決算
 - エ、第16回全道大会に関する事務局関係の予算案作成、会計執行、決算
 - オ、平成7年度在外教育施設派遣教員帰国報告書に関わる予算作成、会計執行、決算
 - カ、その他会計に関する事
 - キ、平成7年度会計決算案作成、会計監査

[庶務部業務事業計画]

1. **基本方針** 事務局および各部との連携を密にして、庶務部事業の円滑な推進を図り、事務局運営に寄与する
2. 活動計画
 - ア、各種会議に関する業務（案内・集約・礼状など）
 - イ、事務局会議・大会運営委員会に関する業務
 - ウ、第16回全道大会に関する業務
 - エ、他団体との連携
 - オ、その他諸文書に関する業務
 - カ、その他庶務的業務

[組織部活動事業計画]

- 1, **基本方針** 事務局および各部との連携を図りながら、組織の充実・発展に努める
- 2, 活動計画
 - ア、全会員の名簿の早期作成、発送
 - イ、会員募集案内の発送と回収
 - ウ、第16回全道大会に関する業務
 - エ、海外派遣者激励会の企画運営
 - オ、その他組織部に関する業務

[広報部活動事業計画]

- 1, **基本方針**
 - ア、会員相互の研修と連携のかけ橋とする
 - イ、研究活動の広報誌としての機能を果たす
 - ウ、地域活動の様子を紹介し、交流する
- 2, 活動計画
 - ア、研究広報誌・事務局だより 年3～4回発行
 - イ、海外派遣会員への広報及び資料発送と連絡窓口

[研修部活動事業計画]

- 1, **基本方針** 北海道国際理解教育研究協議会の充実、発展に寄与できるような事業の推進に努める
- 2, 活動計画
 - ア、会員相互の研修会
 - イ、国際理解教育に関する資料収集、資料保管
 - ウ、帰国報告集の編集・発行
 - エ、アート・キャンプ・アジェンダフォーラムに関する業務
 - オ、その他研修部に関する業務

[研究部事業計画]

- 1, **基本方針**
 - 全道大会の研究主題や内容を深めるとともに、実践に裏付けられた研究の推進に当たる
 - 会員一人ひとりの協力を得て、より充実した研究の推進に当たる
- 2, 活動計画
 - ア、国際理解教育についての理論研究を行う
 - イ、国際理解教育のカリキュラムについての提言をする
 - ウ、全道大会の研究推進に協力と研究に関する基調提言
 - エ、全道大会の運営に協力する
 - オ、研究推進の充実を図る

平成6年度

会 務 報 告

北海道国際理解教育研究協議会

平成6年

- 3・3 平成5年度 理事会・総会（ホテル・アカシア）
平成6年度 在外教育施設派遣教員激励会
- 4・20 全国大会（平成6年度 新潟）提言者決定
釧路柏木小 川口主紀 札幌明園中 大竹伸一
- 5・14 根室国際理解教育研究会支部結成（会長 川島 武 校長）
- 5・31 函館国際理解教育研究会支部結成（会長 笠井 敬一校長）
- 7・17 第2回国際理解・国際協力のための作文応募（知事室国際企画）
- 8・3 全国海外子女教育協議会理事会（新潟）出席 会長
- 8・4 国際ジュニアアートキャンプ アートスクール交流会（芸術の森）
事務局 池田幸一教諭 他
- 8・4～5 全国海外子女教育研究会・全国国際理解教育研究会（新潟大会）
- 8・8 国際ジュニアアート『キャンプ イン トナム』外国人教師との交流会
事務局 広瀬 保志 教諭 他
- 8・27 上川・旭川国際理解教育研究協議会・海外教育事情報告会
第4回『世界を知る集い』
- 8・28 札幌国際理解教育研究会（二条小学校）
- 10・4 国際ジュニアアートキャンプ打ち合わせ（平成7年度に向け）
- 11・10 平成6年度 北海道国際理解教育研究会 『石狩大会』
・幼・小・中・高 連携研究授業
・講演会『スポーツは世界をつなぐ』 長崎 宏子氏
- 11・12 第2回北海道アジェンダフォーラム 助言 事務局 広瀬・中村

平成7年

- 1・27 平成7年度 在外教育施設派遣教員名簿（道教委より）
- 2・15 平成7年度 全国大会（広島）分科会報告者決定
石狩花川中 堀川 俊司 教諭
- 2・25 平成6年度 帰国報告集完成・『石狩大会』 研究収録配布
- 3・6 平成7年度 理事会・総会（ホテル・アカシア）
平成6年度 在外教育施設派遣教員報告会
平成7年度 在外教育施設派遣教員激励会

平成7年度 北海道国際理解教育研究協議会 役員一覧

《 顧問 》

気境 公男 (元北海道教育委員会教育長)
 中山 素水 (北海道工業大学教授)
 木田 哲也 (初代会長)
 木皿 弘勝 (第2代会長)
 千葉 福男 (第3代会長)
 磯貝 登 (第4代会長)
 大泉 弘 (第5代会長室蘭市本室蘭中学校長)

《 会長 》

石田 省子 (札幌市立平和通小学校長)

《 副会長 》

福田 閔三 (札幌市立琴似中学校長)
 藤本 伸治 (木古内町立木古内小学校長)
 五十嵐一之 (旭川市立高台小学校長)
 森田 勉 (乙部町立乙部中学校長)
 田畑 雅皓 (釧路市立共栄中学校長)
 白井 潔 (江別市立第三中学校長)

《 監事 》

上坂 功 (三笠市立菅野中学校長)
 笠井 敬一 (函館市立日吉が丘小学校長)

《 理事 》

寺本 吉明 (芽室町立芽室小学校長)
 関 全 (湧別町立芭露小学校長)
 夏目 興市 (虻田町立花和小学校長)
 菊地 忠敬 (蘭越町立共和中学校長)
 庄司 昭志登 (浜頓別町立頓別小学校長)
 川島 武 (羅臼町立羅臼中学校長)
 笹川 幸一 (浦河町立荻伏小学校長)
 高橋 徹 (小樽市立奥沢小学校長)
 富田 泰雄 (小平町立鬼鹿小学校長)

事務局長 一関 庶路 (札幌市立しんえい幼稚園長)
 次長 高橋 承造 (札幌市立澄川南小学校教頭)
 藤原 勲夫 (札幌市立平岡小学校教頭)
 研究部長 高橋 宏 (札幌市立稲陵中学校)
 副部長 石塚 信彦 (岩見沢市立幌向小学校)
 研修部長 広瀬 保志 (札幌市立三角山小学校)
 副部長 古川 義明 (札幌市立大谷地小学校)
 広報部長 斎藤 吉文 (札幌市立清田緑小学校)
 副部長 中村 淳 (札幌市立真駒内緑小学校)

組織部長 澤田 崇 (札幌市立伏古北小学校)
 副部長 佐藤 稜子 (三笠市立三笠中学校)
 庶務部長 池田 幸一 (札幌市立八軒西小学校)
 副部長 中村 一治 (当別町立当別小学校)
 会計部長 吉田 博 (札幌市立美しが丘小学校)
 副部長 清水 博 (石狩町若葉小学校)
 《事務局》〒004 札幌市豊平区真栄2条1丁目11-20
 札幌市立しんえい幼稚園内☎011-883-3345

[札幌支部]

会長 福田 閔三 (札幌市立琴似中学校長)
 副会長 大湯 勝 (札幌市立常盤中学校教頭)
 山内 武道 (札幌市立真駒内緑小学校長)
 佐野 和人 (札幌市立北九条小学校教頭)
 真木 孝輝 (札幌市立拓北小学校教頭)
 事務局長 後藤 宏 (札幌市立二条小学校)
 研究部長 白石 邦彦 (札幌市立平岡公園小学校)
 研修部長 広瀬 保志 (札幌市立三角山小学校)
 広報部長 酒井 允 (札幌市立手稲中学校)
 庶務部長 鈴木 秀夫 (札幌市立茨戸小学校)
 監査 羽賀 富士雄 (札幌市立富丘小学校長)
 中野 繁男 (札幌市立旭丘高校)

[石狩支部]

会長 白井 潔 (江別市立江別第三中学校長)
 副会長 大塚 広二 (千歳市立青葉中学校長)
 菅浦田正満 (千歳市立桜木小学校長)
 事務局長 森田 紀宏 (広島町立東部中学校教頭)

[空知支部]

会長 上坂 功 (三笠市立菅野中学校長)
 副会長 舟崎 征二 (幌加内町立添生内小学校教頭)
 佐藤 稜子 (三笠市立三笠中学校)
 事務局長 大津 外志男 (栗山町立栗山中学校)

[渡島支部]

会長 藤本 伸治 (木古内町立木古内小学校長)
 副会長 田口 公紀 (八雲町立落部中学校教頭)
 事務局長 長田 修一 (上磯町立石別中学校)

〔松山支部〕

会 長 森田 勉 (乙部町立乙部中学校長)
副会長 山本 善 (厚沢部町立厚沢部小学校長)
事務局長 豊田 収 (上ノ国町立上ノ国中学校教頭)

〔十勝支部〕

会 長 寺本 吉明 (芽室町立芽室小学校長)
副会長 堂畑 尚一 (上士幌町立上士幌小学校長)
山上 貞次郎 (広尾町立広尾中学校長)
桑谷 昌芳 (帯広市立東小学校長)
事務局長 笠松 信一 (本別町立勇足小学校長)

〔上川・旭川支部〕

会 長 五十嵐一之 (旭川市立高台小学校長)
副会長 貝津 肇 (旭川市立千代ヶ田中学校長)
佐竹 光夫 (美瑛町立上明德小学校長)
佐々木新次郎 (上富良野町立清富小学校長)
三谷 興 (鷹栖町立北斗小学校長)
小川 雅美 (旭川市立東光小学校教頭)
事務局長 松倉 康夫 (旭川市立桜岡中学校)

〔網走支部〕

会 長 関 全 (湧別町立芭露小学校長)
副会長 米澤 淳 (常呂町立常呂中学校長)
安彦 道隆 (網走市立第五中学校長)
出淵 隆男 (女満別町立開陽小学校長)
伊興田浩途 (留辺蕊町立留辺蕊小学校長)
事務局長 石橋 寿晴 (常呂町立富丘小学校教頭)

〔釧路支部〕

会 長 田畑 雅皓 (釧路市立共栄中学校長)
副会長 千葉 正 (釧路町立常原中学校長)
秋山 隆 (釧路市立春採中学校長)
工藤 政志 (釧路市立白樺台小学校長)
事務局長 樋原 永幸 (釧路町立知方学小学校教頭)

〔胆振支部〕

会 長 大泉 弘 (室蘭市立本室蘭中学校長)
副会長 米沢 克己 (虻田町立洞爺温泉中学校長)
大野 重利 (室蘭市立室蘭東中学校長)
依田 俊秀 (苫小牧町立苫小牧啓北中学校長)
事務局長 木山 春生 (室蘭市立本室蘭中学校教頭)

〔留萌支部〕

会 長 富田 泰雄 (小平町立鬼鹿小学校長)
副会長 斎藤 哲 (増毛町立増毛小学校教頭)
松木 勝徳 (留萌市立留萌高校教頭)
事務局長 笹森 文夫 (天塩町立振老小学校)

〔後志支部〕

会 長 菊地 忠敬 (共和町立共和中学校長)
副会長 尾崎 宣文 (仁木町立仁木中学校長)
須貝 亨 (倶知安町立東陵中学校教頭)
事務局長 射守谷秀治 (泊村立堀株小学校教頭)

〔小樽支部〕

会 長 高橋 徹 (小樽市立奥沢小学校長)
副会長 高橋 悦男 (小樽市立色内小学校教頭)
青木 俊樹 (小樽市立量徳小学校教頭)
事務局長 佐々木俊郎 (小樽市立住吉小学校)

〔根室支部〕

会 長 川島 武 (羅臼町立羅臼中学校長)
副会長 中村 長治 (根室市立和田小学校長)
青山 信一 (標茶町立川北中学校教頭)
事務局長 高橋 将 (別海町立上春別中学校教頭)

〔日高支部〕

代表 笹川 幸一 (浦河町立秋伏中学校長)
副代表 清水 聰 (門別町立賀張小学校長)
事務局長 根城 健 (浦河町立堺町小学校教頭)

〔宗谷支部〕

代表 庄司 昭志登 (浜頓別町立頓別小学校長)

〔函館支部〕

会 長 笠井 敬一 (函館市立日吉が丘小学校長)
副会長 小笠原 雅 (函館市立深堀中学校教頭)
高橋 勇 (函館市立日吉が丘小学校教頭)
小関 俊介 (函館市立港小学校教頭)
事務局長 佐々木宏二 (函館市立日吉が丘小学校)

第5回 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会北海道ブロック大会
第16回北海道国際理解教育研究大会（上川・旭川）
第10回上川・旭川国際理解教育研究大会

1. 主 題

たくましく世界に生きる子どもの育成を目指して
～すべての学校における、
身近な国際理解教育の実施を求めて～

2. 期 日 平成7年10月20日（金）～21日（土）

3. 会 場 旭川市大雪クリスタルホール

4. 主 催 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会
北海道国際理解教育研究協議会
上川・旭川国際理解教育研究協議会

5. 後 援 北海道教育委員会 他

6. 日 程 第1日目（10月20日・金-午前9時30分より）

- ・幼、小、中、高 授業公開
- ・分科会（研究発表）

- (1) 『学校全体の国際理解教育の計画』
- (2) 『教育課程と国際理解教育』（幼・小）
- (3) 『教育課程と国際理解教育』（中・高）
- (4) 『国際交流の現状について』
- (5) 『国際理解教育研究協議会各支部の実践』

※レセプション（PM.6:00より）

第2日目（10月21日・土-午前9時30分より）

- ・記念講演

7. 参加費 1人 3,000円

8. 連絡先 実行委員長 五十嵐一之（旭川市立高台小学校長）
〒071 旭川市春光台1条3丁目 ☎ 0166-51-8120 ※勤務先
大会事務局長 小川雅美（旭川市立東光小学校教頭）
〒078 旭川市東光18条6丁目 ☎ 0166-32-9958 ※勤務先

お知らせ

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

第22回

全国海外子女教育研究大会

全国国際理解教育研究大会

広島大会

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

主催 全国海外子女教育研究協議会

広島国際理解教育研究協議会

大会主題 21世紀の平和を支えるのは君たち

～ヒロシマで国際理解を考える～

期 日 平成6年8月8日(火)9日(水)

会 場 広島国際会議場(平和公園内)

広島市中区中島町1-5

日 程

8月8日(火) 開会式

記念講演予定 岩國 哲人(前出雲市長)

分科会 ・レセプション

8月9日(水) 総会 ・語り部講演

原爆慰霊碑巡り・パネルディスカッション

分科会

①帰国児童生徒の教育の現状と課題

②海外での児童生徒の教育の現状と課題

③学校現場における国際理解教育の現状と諸問題

提案発表 石狩町立花川中学校 教諭 堀川 俊司 他
テーマ「差別～人権擁護と人類愛を求めて～」

④地域社会における国際理解教育の現状と諸問題

(市長村や企業・地域における諸活動)

連絡

一関 庶路 事務局長 (札幌市しんえい幼稚園)

電話 011-883-3345

平成7年3月帰国 在外教育施設派遣教員一覧

管内	所属	職名	氏名	派遣先		
				国名	日本人学校名	職名
石狩	千歳市日の出小学校	校長	末永 磊吉	オーストラリア	シドニー	校長
	札幌市立真駒内緑小	校長	山内 武道	インド	ボンベイ	校長
	札幌市立山鼻中学校	教頭	橋本フミエ	ドイツ	フランクフルト	教頭
後志	小樽市立幸小学校	教諭	尾崎 昌江	ケニア	ナイロビ	教諭
	余市町立旭中学校	教諭	渡辺 常彦	トルコ	イスタンブール	教諭
	共和町立共和中学校	教諭	三浦 正美	バーレーン	バーレーン	教諭
上川	南富良野町幾寅中	教諭	工藤 芳晴	インド	ボゴタ	教諭
	風連町東風連小学校	教諭	山本 昇一	インド	ボンベイ	教諭
	旭川市神居東小学校	教諭	在間 寛	オーストリア	ウィーン	教諭
網走	女満別町立女満別中	教諭	平野 毅	サウジアラビア	ジェッタ	教諭
胆振	白老町立白老小学校	校長	有江 則雄	シンガポール	シンガポール(小学部)	校長
	室蘭市本室蘭小学校	教諭	沢田 光男	オーストラリア	シドニー	教諭
	苫小牧市凌雲中学校	教諭	鈴木 学	ベネチア	カラカス	教諭
渡島	森町立森小学校	教諭	斎藤 雅樹	ベルギー	ブリュセル	教諭
宗谷	歌登町立歌登中学校	教諭	久保 俊博	インド	ニューデリー	教諭
釧路	浜中町霧多布中学校	教諭	笠島 博	インドネシア	バンドン	教諭

3年間ご苦労さまでした。

海外体験を今度は北海道の教育に生かしてください。

ご活躍を期待しております。

海外からの便り

海外教育施設に派遣中の先生方よりお便りが届いています。

平成6年度派遣 ミラノ日本人学校 宮澤 知 先生 より(岩内第二中学校在籍)
ミラノ市のギャラリーを借りての本格的な日本人学校作品展が成功裡のうちに完了しました。美術担当の宮澤先生の活躍が目に見えます。今年度より北海道の先生が3名もいらっしやるとのことです。

平成7年度派遣 ブラジル・マナオス日本人学校 高木司先生より(附属旭川小学校在籍) 元気なお便りが参っております。当地マナオスは南緯4度とほぼ赤道の真下に位置しています。ですから年中『日の入り6時』『日の出6時』と決まっています。………
(通信アマゾン日より)

平成5年度派遣 ブラジル マナオス日本人学校 河野 匡宏先生より(広島町立広葉中学校在籍) 元気なお便りが届いています。帰国校長の後を受け新年度受入れ体制などがんばられております。

平成5年度派遣 シカゴ補習校学校長 菊池 征児先生より(室蘭市北辰中学校在籍)
補習校平成7年度教師の手引き・学校文集・YOMIURIAMERICAの学校関係の記事など沢山の資料が届いております。興味のある方は事務局まで連絡ください。

平成5年度派遣 韓国 釜山日本人学校 坪内 夕季子先生より(旭川市啓明小学校在籍) 元気なお便りが届いています。アサン日本人学校での生活と韓国での異文化理解を深められている姿を綴ったレポートアサン・チュルバン29~35号がとどいております

平成5年度派遣 台湾・台中日本人学校 徳光 茂先生より(蘭越町蘭越中学校在籍)
) 元気なお便りが参っております。沿道の人々の『加油! 加油!』の声援を受け11月に台中市のマラソン大会に参加された様子が台湾通信で報告されています。徳光先生! 加油! (がんばれの意味だそうです)

平成7年度派遣 インドネシア・バンドン日本人学校 廣島 直先生より
(札幌市立平岡南小学校在籍) 3月まで事務局会計を担当していた廣島先生より元気な便りが届きました。停電・雨漏り・あまりよくない水事情など児童・生徒20名近くのバンドン日本人学校での生活にもなじまれてきたようです。

国際ジュニア・アートキャンプ
INTERNATINAL JUNIOR ART CAMP

海外の教師との交流会への参加を！

本会は、世界と北海道の子どもたちを対象に「国際交流」を深めることを目的に、北海道・札幌市・北海道新聞社が主催し8月に開催いたします「国際ジュニア・アートキャンプ」（参加 8ヶ国の子ども64名・教員16名程度）を後援します。その活動の一つとしてアルファ・リゾート・トマムで行われます、世界各国の引率教師との交流会・並びに引率教師のお世話役を行うことになりました。つきましてはたくさんの先生方の参加をお願い致します。

日程

- 8/1 海外参加者 札幌着 (真駒内ハイツ)
- 8/2 オリエンテーション オープニングセレモニー (真駒内ハイツ)
- 8/3 アートスクール (真駒内ハイツ)
- 8/4 市内見学 ホストファミリー対面式
- 8/5 ジュニア……ホームステイ
エスコート……道内の先生との交流会(真駒内緑小学校)・市内見学(真駒内ハイツ)
- 8/6 アルファ・リゾート・トマムへ (ステージパフォーマンスなど)
7 トマム・キャンプ(アートワークなど)
8 帰札・海外参加者帰国

上記日程の内 8/6(日)~8(火)……トマムキャンプへの参加を募集しています。

内容 ・外国人教師のエスコート(お世話役)

・外国人教師との交流会参加……スポーツ・教育談義

(日本語は通じませんが昨年参加された先生の話では特に問題はなく交流できたとのことです。)

参加者 カナダ・中国・ドイツ・韓国・ニュージーランド・タイ・シンガポール・アメリカ
各国引率教師 2名 8カ国

本会より 特に人数制限はありませんが20名程度予定しています。

(本会会員以外でもこれをきっかけにお誘いしてみたいかでしょうか)

*日程のとれない場合は 日帰りでも1泊2日でも可能とのこと。

連絡 詳しくは事務局研修部まで

広瀬 保志 札幌市立三角山小学校 (643-1133)

064 札幌市中央区宮の森4条11丁目

古川 義明 札幌市立大谷地小学校 (863-5790)

*その他 8月3日アート・スクール・8月5日交流会・市内見学に
参加しお手伝いいただける先生がいらっしゃいましたらご連絡ください。

国際交流の輪は草の根からと全国各地でいろいろな活動が行われている。札幌でも留学や仕事で多くの外国人が暮らしているが、互いの異文化を学び合おうと海外の人と交流する団体や個人も少なくない。外国人と日本人の学生が同じ寮生活をしたり、授業にNGOのスタッフを参加してもらっている実践もされている。ある飲み屋では、月に1回、テーマを決め料理と酒から交流を図っている。

私も先日、北海道大学国際婦人交流会の方とお話しする機会があった。交流会では、北大に留学されている教官や学生、そしてその家族の方の札幌での生活を支援されている。

その話の中で話題になったのは「教育」のことである。皆さん実際に外国人との交流を通しての意見なので実践のヒントになるものばかりであった。

ややもすると「教室」という場だけの国際交流になりがちだが、地域のなかで行われている活動に目をむけることで、より容易に具体的な実感を伴う実践が可能になると考える。

////// 図 書 紹 介 //////////////

国 際 感 覚 と 日 本 人

金 山 宣 夫 (NHKブックス)

〈著者紹介〉 かなやま・のぶお1936年生まれ

東洋学園大学人文学部教授

国際感覚という言葉は、私達の生活のなかで当たり前のように使われている。しかし、残念ながらその使われ方は非常に感覚的なものである。本書では、私達が生来もっている「まこと(誠)」「シツケ(躰)」という2つ概念を利用しながら国際感覚を説明し、「日本文化」と国際感覚との違いについて説明している。

しかし、作者は、「文化を変えよ。」と主張しているのではなく、変えるとか変えないという前にまず「見直してみよう」と呼びかけている。文化の見直しによって、一見ささいとみられていた現象や行為が、実は、国際摩擦につながっているというなぞ解きをしてくれる。

そして、作者は国際感覚の柱を提案している。第一にお互いを対等な主体として認めること。第二にお互いにの文化的背景を理解してつきあうこと。第三にそこから共通の利益や新しい機会を生み出して行くことである。

また、文化の相違を踏まえ、新たな他者との相互反応的な関係の枠組みをめざす「文際教育モデル」を提唱している。このモデルは「国際」つまり国家間よりも、むしろ「文際」つまり異文化間の理解の大切さを土台としている。文際教育は、地球の片隅に孤立する未開発社会の「原始文化」とともに開発途上国の「貧困国家」にも関心をはらい、先進国の「先進国病」も見逃さないと主張している。これらの主張は、我々の「国際理解教育」にも深い示唆をあたえてくれると思う。

中 村 淳

事務局会議から

今年度からは事務局は一関事務局長就任に伴い札幌市立しんえい幼稚園に置かれることになりました。道央高速道北広島ICで降りられるのが便利かと思われます。

先日の事務局会では空知・石狩・札幌から集まった局員同士顔を合わせながら今年度の運営方針などについて話し合われました。

各地区・各支部の会員相互の連携を深め組織の強化と活動の充実を図り、会員の資質を高める研修活動のありかたなど会の活動の内容を豊かにするための方策が話題の中心になりました。

特に8月実施の国際ジュニア・アートキャンプへの参加については今年度からは今まで以上に参加しやすい体制が整いましたので数多くの会員の皆さんのご協力があればと願っております。

お知らせ

日本国際連合協会北海道本部・知事室国際企画より作文の応募の依頼が参っております。本会としましても国際理解教育を進めるにあたり積極的に関わってきています。今年度も多くの作品が集まりますように協力していきたいと思っております。是非ご協力お願いします。

～「第3回 国際理解・国際協力のための作文コンテスト」へ応募について～

趣旨 作文を通じて、国際連合憲章の精神を普及し、基本的人権の尊重に立脚した国際理解・国際協力の必要性の認識を深める。

応募対象 道内の小学生・中学生

内容 題は自由。今年は『国連寛容年・国連50周年』にあたるのでそれらにちなんだものがふさわしいのでは…。

原稿制限 400字詰め原稿用紙 3枚以内

しめきり 8月25日ごろ 事務局又は日本国際連合協会北海道各支部へ

*詳しくは後日各教育局経由で学校へ依頼プリントがでます。

編集後記 各地区・各支部の活動も活発に行われ昨年度は函館・根室の支部も誕生し本会の益々の発展が期待されます。国際ジュニア・アートキャンプ・札幌でのジャパンプロジェクト（現職教員の派遣）など他の民間団体との連携を含め会の実践が高く評価されてきています。今年も会の創造的実践をめざし活動していきたいと思っております。

<斎藤吉文・中村 淳>

連絡

平成6年度帰国報告集・全道石狩大会報告集など送付しました。まだ、お手許に届いていない支部は事務局までご連絡ください。